2016年８月１８日

各　　位

島根県労働組合総連合
事務局長　都田 哲治

「新知見を学ぶ」新潟大学名誉教授 立石 雅昭 先生講演会について 各組合からの参加を呼びかけます

皆さんの連日のご奮闘に心より敬意を表します。

さて、しまね労連が加入する原発ゼロをめざす島根の会（ゼロの会）は、立石雅昭先生を招き、学習会をするために講演会実行委員会をつくりました。

講演会は、９月10日（土）13:30～島根県教育会館４階会議室で開催します。

詳細は別添チラシの通りです。

立石雅昭先生は、新潟大学の名誉教授であり、新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員も兼任し、著書には、『地震列島日本の原発 柏崎刈羽と福島事故の教訓』、共著に『川内原発を巨大地震が襲う』などがある有名な地質学者です。

立石先生は、本年２月11日～12日、島根原発の構内、島根町や鹿島町などの海岸周辺調査をしました。その折、先生は「波食棚をみると、約6000年前以降の地震活動で地盤が隆起したものと考えられる。この地域でも大きな地震が起こる可能性は十分にある」と指摘されました。

中国電力は、「島根原発周辺の活断層は、後期更新世以降、即ち１２万～１３万年前の活動性が明確に判断できで、これまでの活断層評価に変更は無い」と主張しています。また「宍道断層や前面海域の断層連動、さらに震源を特定できない地震についても評価し、安全対策設備および既設の建物や機器・配管系の耐震安全性に問題のないことを確認しているので、新規制基準に適合している」と言ってきました。

立石先生は、「中国電力は歴史的に活断層の過小評価を繰り返してきた。この間宍道断層の評価を何度も延長してきたが、その科学的根拠は示されていない」と厳しく批判しています。また、「地震を引き起こしうる震源断層と活断層の関係については、まだ解明されていない。現時点で原発が安全だと主張するのは傲慢だ」と、地質学者の立場から断じています。

私たちは、安倍政権や電力会社が再稼働に向けての動きを加速させる中、宍道断層東端の調査、宍道断層と鳥取沖断層の連動性の調査は不可欠であると考えています。

県民の安全を守るため徹底した調査が求められており、しまね労連は、改めてゼロの会運動に結集し、原発再稼動阻止の運動に取り組んでいきましょう。

当日の学習会には、各組合から積極的な参加をいただきますよう呼びかけます。